

2023_1015「浅間山と牧草ロール（写真）」日々の理科 3356号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

北海道や信州の牧草地を旅行していると、牧草を丸めた大きなロール状のものをよく目にします。俗に「牧草ロール」と呼ばれています。近年は厩舎で牛を飼育する農家が多く、牧草地で牛を目にするのはほとんどなくなりました。ほとんどの牧草地は、正確には「採草地」と呼ぶべきで、牧草を「収穫」するために存在しています。

この「牧草ロール」の正式名称は「ロールバール・ラップ・サイレージ」といいます。トラクターに取り付けた専用の農機具で牧草を刈り取り、その後「ベラー」と呼ばれる農機具で硬く丸めます。その後また別の農機具で、丈夫なポリ袋でラッピングされます。ポリ袋は白、黒が多いですが、稀に緑色のも見かけます。そのまま何か月も放置し、牧草を発酵させてから牛に与えるのです。かつてこの発酵過程は「サイロ塔」で行われていました。しかし、塔内での窒息事故が多発し、現在はロールバール方式が主流になっています。

このロールバールは1個 500kg~1t もあるそうです。私はちょっと押ししてみましたが、ぜんぜん動きませんでした。写真のロールバールは、ベラーで丸めた直後のもので、この状態のものはめったに見かけません。

(2023年10月中旬／北軽井沢)

